

No. 5 2016. 7. 22

少し前に「ドイツの自然・森の幼稚園」(ヤマー・アナー・公社, 2009)という研究書を読みました。この本には、「森の幼稚園」に通っていた子とモフスカ「普通の幼稚園」に通っていた子とをたちと比べて教育にどのような差が見られるのかについて、ドイツ国内の小学校1年生を対象に実態調査を行った/分析と検証が書かれています。

この調査では、次の2のことで明らかにするために、42の項目と6の因子に整理し、質的要素に設計されている。

- ① 就学前施設としての森の幼稚園に通園していた子どもたちは、正規の幼稚園に通園していた子どもたちと全く同様に学校に上がる準備がなされているか？
- ② 子どもが事前に森の幼稚園に通っていたならば、1年生になって問題はありますか？

6つの因子と42の項目

「動機付け・忍耐・集中」

- ・ 子どもが課せられた課題を自主的に解決する
- ・ 子どもが命じられた仕事に辛抱強く当たる
- ・ 子どもが授業中の出来事に注意深く付いていく
- ・ 子どもが自分の意見で自主的に家での仕事を作り出す
- ・ 子どもが決まりを守る
- ・ 子どもが授業に専念して協力する
- ・ 子どもが落ち着いて座っていられる
- ・ 子どもが長時間授業科目に専念する
- ・ 子どもが授業のテーマに関心を示す
- ・ 子どもが授業中努力する覚悟を示す

「社交的行動」

- ・ 子どもがほかの子たちと一緒にって共同作業をする
- ・ 子どもが欲望を抑えられる
- ・ 子どもがクラスに溶け込む
- ・ 子どもが決まりを守る
- ・ 子どもがほかの子たちとの争いを穏やかに解決する
- ・ 子どもが遊ぶときほかの子たちに公平である
- ・ 子どもがほかの子に対して役に立つ
- ・ 子どもがほかの子たちと一緒に遊ぶ
- ・ 子どもが普通以上に攻撃的な態度を示す

「授業中の協働」

- ・ 子どもが空想に満ちている
- ・ 子どもが授業中しばしば質問する
- ・ 子どもが自分の立場を主張する
- ・ 子どもが適切な言葉で自分の意見を述べる
- ・ 子どもが授業中独創性を発揮する
- ・ 時事問題授業で子どもたちの評価

「美の領域」

- ・ 子どもが空想に満ちている
- ・ 子どもが手先を起用に意のままに動かせる
- ・ 子どもが授業中独創性を発揮する
- ・ 書き方授業で子どもたちの評価
- ・ 造形の形態の領域で子どもたちの評価
- ・ 音楽授業で子どもたちの評価

「認識の領域」

- ・ 子どもが授業中課せられた問題を解決できる
- ・ 朗読授業での子どもたちの評価
- ・ 子どもが色、形、大きさを区別できる
- ・ 子どもが授業中学習の進歩を示す

「身體的領域」

- ・ 子どもが自分の不器用な動作をする動き具合を整合できる
- ・ スポーツ科目での子どもたちの評価
- ・ 子どもが校舎の中で自分の位置が確認できる

ドイツ国内の244人の幼稚園生の担任がこの調査に協力したところ、幼稚園の「動機づけ」「集中」「社会的行動」「授業中の協働」の3つの因子で、森の幼稚園の卒園児の方が普通の幼稚園の卒園児よりも「優れている」と評価したとのことでした。関係する者としては諸君を挙げたいような結果ですが、こういう結果は冷静に読み取る必要もあります。あくまでこれは調査の平均です。したがって、そのような平均的な様子でもは存在しません。また、発育に凹凸があるのが当然ですが、優れている点がある一方で、そうではない点もあるはずで、その点にはこの本では及べないと言及していません。したがって「どういった傾向を示す場合が多いか」という程度の認識にとどめておこうと思っております。ただ、著者が「森の幼稚園の教育的意義」を明らかにしたいという動機には強く共感します。幸いなことに、ほろろひろびとをはじめ他の活動でもひろびろ卒園児の小学生と関わり機会が多くあるのですが、その時に卒園児の姿に心動かされることがあります。「ひろび」ということは、ベビーの保育中以上に、卒園児に関わる中でひろびろ強く意識することが多いのです。そんな卒園児の最近の姿を紹介いたします。

7月初旬、小学生対象の「ひびく」3年生に於た卒園児の行人くんと宇大朗くん。今のあぐりが
どんぐり時代におおぐりた2人です。この日は一日雨。しかし一時的に雨が止んでいたとの隙を
ついで、「川へ行こう!」と盛り上がる2人。川へ行くには滑りやすい坂道を杖をばして伸び下草と
ぬきわけながら進むはなりません。ジャンコートは脱いでまてので、どんどん上半身が雨露で
濡れていきます。切り立った崖に抱かれた川に到着。ドーンと音を立てて川の水は流れています。
「崖登ろうぜ!」と行人くん。上から垂れ下るツタを握り、急斜面に足とかかますが、さきほどまで
降っていた雨の暴風で土がやわらかくなっています。足元の土がどんどん崩れ、なかばかきようん
登ほめません。ぬいでもなにか登ろうとする2人。服はどろどろです。しばらく経って「無理
じゃない!」と宇大朗くん。つらつらに行人くんが「何言ってるかよ! 行けたら! ひびくの子が!」
一呼吸置いて、宇大朗くん「そうだな、行けるか! 行けるか!」さらにどろどろになりながら
上を目指しました。そしてある程度まで登って納得した表情で降りきて、服のどろろを洗、流すか
のように増水した川へ入って行きました。「ひびくの子から行ける」という保証はどんにもな
いの、なんなんでしょう。この根拠のない自信に満ちた姿。よく見ると、いかににくいものか
けども、ちと頑かなものか。2人の身体どろろの中にいかに根付いていけるのでしょうか。

川に行く前には、この2人はそれぞれ側面の姿を見せました。ほろろびろびろと身体中に
キャンフを塗ります。1年生は2泊3日。キャンフの中身は子ももたずか、話し合いを通じてアッ
います。この日は、初回目の話し合いが行われました。「食事」「おやつ」「持ち物」「おとし
「おひかき」などのグループに分かれ、おとしのアイデアを出し合っていました。行く人と
宇大朗くんはおやつグループ。あまーい、おいしいおやつが、じんじん出ています。話し合いの途中
でこの2人が他のグループにいた1年生の悠太くんの所に行きました。「おかしなクッキーおかし
「ヒースクットなぞ大丈夫？」と声をかけています。行く人と宇大朗くんがおおくりだった時に、
まっぼろぐりだった悠太くん。ああ、おかしのお出掛けの時ほどに、体調の関係から一人だけ
別のおやつを食べていた悠太くんの姿が、心の中に残っていたのと同じよう。おやつグルー
の話し合いの結果の紙には、友だちのおやつの中に「かう太くんのようなヒースクット」と書かれ
ていました。

このように、「おれ、大丈夫!」「わたしは平安!」という声と「あいつ、大丈夫かな?」「あのこ平安かな?」という声は表裏一体です。たぐさんの挑戦と失敗の経験から、「自分自身への信頼」と「仲間への関心と信頼」は、やっぱり同時並行で、いかりを煮詰めていくものです。ほしどの子どもにもとて、ぴりぴりは初め家庭の外へ出て、日常的に生活する社会であり、ここでの経験が、その子にとっての社会的共同生活のベースとなっています。10-17世代が指摘していることは、卒園児2人の姿を重ねながら「森を中心とした自然の中で、時間的・空間的なゆとりをたっぷり持ち、異年齢の仲間と過ごす」というぴりぴの在り方が、卒園後の子ども達の姿に大きく影響しているという確信を改めて強くしました。

1学期、たくさんのお会ひがあり、関わりをとおしてのペースで深めていったひろみの子でもたち。夏休みもたっぷりあそんでくたさい。保護者のみなさん、様々なご協力でありかたうございませう。休み中もスタッフのメールや電話はつながります。何か気になること、話したいこと、そして S.O.S... とうそ、年がねなくご連絡ください。

8月19日、全員で元日に会をもちょうに...

慎之

おおきいくみだより



月一回のライジング"フィールド"でのあいさといくみ。5・6月とも雨に降られてしまいましたが7月14日は朝から青空が気持ち良く広がっていました。

見渡せるほど広いライジングの広場は、びっぴの森とは違い足元を気にすることなく走り回れる場所。いつも鬼ごっこやリレー、運動会ごっこなどを楽しんでいます。

今回、広場は一面のシロツメクサ。この広～い草野原をおあひくみの子も達で一斉に駆け回り、たう楽しいだろうなと、まずは「あひくみさん、いま何時?」やることに。あひくみはスタッフ4人全員。「あひくみさん、いま何時?」「今、3時。」「あーまた!」とあひくみ近付きながら繰り返す。最後に「今、夜中の12じいん!」できゃあ〜!!と子も達が広場のあちこちに散らばって行きます。懸命に追いかける愛子 あひくみ。しかし、子も達にや、と近づいたと思つとパツと四方八方に飛び散ってしまう。捕まえた子があひくみの寝ているときにあ助けタッチで全員復活。今度は子も達全員捕ましようと4匹のあひくみ走り回りますが、大くりさんはつかつか捕まらず...最後の蒼空くん 武蔵くんを包囲網でや、とのこと確保。終わった時にはスタッフ全員くたした。でした。

次は、コーンとなわとびで作ったトラックで周回リレーにネカ排戦しました。まずはおくり・大くりが2チームに分かれて文す戦い。みんな上手に体を傾けて走っていました。それをしっかり見ていた松ぼっくりさんも2チームに分かれて走りました。コースをはずれることなく上手に回っています。が、カーブを曲がったところで待っている次の人、ではよく、手前が順番を待っているチームメイトにバトンを渡しに行ってしまう人が続出。それがまた、松ぼっくりさんらしく可愛らしい。松ぼっくりさんたちは、午後もう一度リレーもやりたいと言って、全員でバトンを繋ぎました。最後の人ゴールして、美穂さんが「今の勝負、松ぼっくりさんの勝ち〜!」と声を上げる。と、「や、Tはあ〜!」とみんな本当に嬉しそうに飛び跳ねていました。

午後になると急に雲の量が増えました。広場で寝転がると視野いっぱいの空の景色。雲がどんどん青空を隠していきます。まるで天上に開いた雲の窓がどんどん閉じてゆくよう。「何してるの?」と覗きにきた子ども達に「雲の窓が開いていくよ。」と空を指差すと一緒に寝転が「ホントだぞ!」と眺めています。でも雲の窓の奥の方でムクムクと成長している積乱雲はアイスクリームみたいでず。「あの雲、アイスクリームみたい。食べた!」と言うと、羽路斗くん「じゃ僕が取ってあげるよ!」立って「オレも!」とどんどん雲のアイスクリームを私の口に運んでくれました。遠くの方で大きく膨らんでいる入道雲も立派でした。すごいねエ。大きいねエ。なびと言いつけると、今度はウリウリ君が「ライオンだぞ!」と。その入道雲は、まるで大きく口を開いたライオンの頭のような形でした。「あ、ちは波だぞ!」と、指差す方を見ると、まさに絵に描かれたような波の形をした雲がぐんぐん進んできました。その後ゴロゴロと怪しい音がして、雨粒も落ちて来ましたが、何とか時間いっぱい広場で遊ぶことが出来ました。帰りの会まで雨に中断されることのない一日でした!

子どもは、東京の荒川土手近くで育ち、よく土手に転がって空の景色を眺めていたものです。でも当時は、それを一緒に楽しんでくれる友達はいませんでした。40歳も半ばにはなって、こうやって雲の織り成る景色を一緒に楽しめる仲間とこんなたくさん出会えるとは!! ぴらぴらの森とは少し趣の違うライジングフィールドの自然。このフィールドでも、もっとたくさんの発見や楽しみを子ども達と分かち合っていきたいです。(律子)

④ 田畑 7=57

春にあつた7月7日、おあきくは田ん科に仕事に出かけた。今日の仕事は田んぼの草とり。じやがいも同様の草とり、カブの刈り入れ、人参の間引きです。「間引き」は草むしりですね。「きゅうと隣り同様に」がついてくるA寺は、大きな人参がもっと大きくなれるように、隣りの小根の土をとりあげる。」と武蔵くんが説明しても、「太きいのとれたー!」と大きな方をとり喜びおはようじゃん。と。「あーす違ふ、大きなじやなく小根の方をとるんだ」ともう一度言っても「太きいの」とくりかえしから行方ありませぬね。「とちがったのは昨日のランチで食べよう」とおと各々で先づ大事に持参する。

実はこの前、3匹の子羊が柵から外へ出てしましました。柵の外側の草を豆で
出して食べているうち、あれ？出られるぞ？と柵をくぐって外へ出てしまった。
柵から出られてはい母さん羊はバタバタ「リッ！リッ！」と鳴きまくり、子羊たちも
「リッ！リッ！」とメエメエ鳴きまくり、どこからリッリッという音がわからなくなりました。鳴いて
困っているのを猛獣おじいちゃんが見つけて運送してくれました。柵の金釘を抜いて板を
外してしまいました。するとお母さんの傍らに走り寄る子羊たち、君羊れど落しているや
全員を出してしまわなればどうにか入ってしまうことにはなるとは思いますが、大あわてで柵を
点検し、下が空いている怪しい場所には板を打ちまくり二度と出られないように
手直ししました。あーびっくりした！

：美和子

ひ^ろ、ひ^ろの森のスケッチブック 7月 キビタキ



森で子どもたちと遊んでいると少し先の目の高さの枝に鮮やかな色合いの鳥が1羽。黄色と黒のいっぺりとしたコントラストが美しいキバタキが木もれ日の中、スポットライトを浴びるように枝にとまっていた。

くちばしの下は少し濃いオレンジ。翼は黒、背中が黄色。じつと子どもたちとみて
いると、「とんくにゃり」とよんでいる尺取虫を口にくわえて、とんでいきました。

5月～7月頃まではキビタキを含め、シロリ鳥たちの子育てシーズン。きっとヒメアトチへ届けにいったのでしょう。時には飛んでいる羽虫を空中でとらえることもし、英名で *Narcissus Flycatcher* と呼ばれています。

キビタキが飛んでいる。四方から「オー・シーツ・ツツク、オー・シーツ・ツツク」とセミのツツクボウシにそっくりの音が聞こえてきました。もしや? と思っていて近づくときやがて先ほどキビタキが、また枝に停まって鳴いていたのでした。本当にいつ聞いてもセミにそっくりで、なんだがこの声を聞くと笑ってしまいます。やがて、「ピーリィ、ピーリッポ・ピーリッ」と先程とは全く違う声でさえずりはじめました。

その鮮やかな姿、豊かに咲き誇るから Narcissus
(水仙の花のように美しいキナレシストの語源)
とも言われるキビタキ。森の中、間隙を縫うように咲く
ので私たちの目には華やかと見えて、実は里山でエ
アなんでしょうか。そしてその姿をみつけた時、こは
その美しさと声の發らしさに、おれ、え、いつも
くぎづけにあらうてしゅうのでした。：菜々恵



一学期のエピソード

・敬称略

・日にち順

④ おおくり ⑤ くり

⑥ どんぐり ⑦ アートの
郁絵さん

⑧ スタッフ

⑨ 松ぼっくり

⑩ お母さん

⑪ (武蔵)・⑫ (蒼空)・⑬ (遙人)・⑭ (なめ)

⑮ (真実)・⑯ (大權)・⑰ (れ)・⑱ (ウリアム)

⑲ (空太)・⑳ (果乃)・㉑ (颯希)・㉒ (環賀)

㉓ (五)・㉔ (咲美)・㉕ (天音)・㉖ (羽路斗)

㉗ (碧空)・㉘ (いろは)・㉙ (晴基)・㉚ (鉄岳)

㉛ (橙李)・㉜ (大夢)・㉝ (悦己)・㉞ (奏人)

㉟ (植木さくら)・㊱ (真永)・㊲ (澄伶)・㊳ (渚)

㊴ (英志)・㊵ (朝太郎)・㊶ (玄太)・㊷ (折原さくら)

⑫(佳梨)は 7/12 入園で エピソードが間に合いませんでした。

・4/11 ④ 雑巾縫いの日。針と糸を使うことを伝えると ④「やらねえことある! 簡単!!」やり始めると ⑤がていねいな仕事ぶり。⑥もコツをつかむと ⑦より自分のペースでやっている。⑧も ⑦より縫っている。⑨「あれ、おかしな」理解はしているが集中力が続かない。⑩は聞いていないけれど ⑪は休めず、何回もやり直しをする。縫い方を理解すると、作業は早い。針山も作るのが 誰一人同じものにはない。一人ひとりがマイペースで自分のやり方のようにやっている感じが出てくる針山に ⑫は。

・4/12 ⑫ 初のびびりの一日。一人の穴席もなく、初日を迎えたことは、何より。⑫は早めの登園。⑬「おはよう」の声かけに ⑭「おはよう」。⑮⑯は ⑫より泣く。朝の集まりでは ⑮⑯は ⑫に抱っこされ。⑰⑱は、切り株の所まで ⑫とんとして出ている。⑲⑳㉑は切り株に座っている。

・4/22 朝の集まりで泣いている⑫はいい。お名前呼びで ⑫が呼ばれると ⑬⑭⑮⑯の仲間だよね。⑰⑱は⑫の弟だね。⑲「あーうか! 弟だ!」㉑「あまちゃんはお松ぼっくりにおちから、これから呼ばれる」㉒「りんくん。㉓だから もう呼ばれた」㉔「りんくん。㉕だから だれだ!」㉖は??。

・⑫「船で! 電車にあるの!」と なみとびを持って来て、ずっと運転手さんにおてあちこちに行き ⑬「乗りますか?」⑭と⑫がすぐ乗りに来。⑮「のりまーす」と大きな声で⑫と乗る。⑯も⑫に手を引かれて馬車で行って「のりまーす」⑫は⑫が乗るとゆっくり走ってあげていた。

・⑮は⑫と離れる時は大泣きだった。朝の集まりでは 棒を持って 周りにつつんと ちんかいを 出し 大はしゃぎ。

・今年度 初アト日は 太陽がまぶしい。⑬のアトの時間。⑭「森の色を描いたら?」おと鳥の声。⑮「たつくん、鳥の声 描けな!」⑯「みんな 風見える?」⑰「は?」⑱「おと鳥の質問をしたら」袋が飛ぶぞ!」「華っぱも揺れてる」は っぺたにあたる。

・⑬のえりんたい。トイレで ⑭が手を後ろにまわして ⑮⑯に「廊下は、走っちゃいけないよ」と お説教。みんながトイレ出るとき リップが グチャグチャ。⑮がそれに気がついて 黙って みんなの分をきれいに並べている。⑰「あらどう」と伝えると ⑱も手を盛っていた。

・目かご不自由な 鈴木 泉さんが びびりに初めていらした日。⑲「みんなのお母さんや先生と 泉は何か違う?」「……」㉑「願かたあ……」㉒「何か目が違う」「私は 病気で 目が見えないのよ」。㉓「もっと 目を 大きく 開けたら 見えるんじゃない?」㉔「お母さんが まぶしいのはわかる?」㉕「あつたかい。あつたはわかる。ちんかいは ちんかいはわかるよ」。㉖「目が見えないけれど お仕事で 東京に行っています。東京は 人や車や ランチ屋さんがいっぱい」㉗「どうして 見えないのに ランチ屋さんが多いの?」㉘「匂い!! 匂いも わかるよ」。これから 子ども達と 楽しい 対話が ありそうです。

・㉙ 開放日に いらした 木戸康智さん(休吾ちゃん㉚)は 森の中で ティーン 声をかけたり。一緒に遊ぶ。本当に 嬉しそうに ㉙「ティーン!」。㉚「だれと遊んだの?」㉛「お兄さん!!」森の奥に ㉜の姿を見つけ、手を 笑っている。

・ランチを食べながら ㉙「れいくんは お肉いっぱい 食べるんだ。㉚お母さんに お願い。強く 叩いたんだ」㉜「かみちゃんも!!」

・お母さんくみの 朝のマラソンは ⑮⑯が みぞとて 走りつづけて。2~3周おち うちに 戻りました。それに 刺激され。㉑⑲ だれが なく。㉒⑳㉓㉔㉕㉖も 2周に 挑戦していました。

- ④が③と一緒に座り込んでランタ準備をしている⑤の後うとうとうしていき、
③が気づいて促すと、嬉しそうに④が座りました。④の机にざりは、自分で海苔を
巻くように促す。④「ごめんね」と、甘えた声で一人言のように、また③に聞こえる
ように言っている。黙って、机にざりと海苔を持ち、巻いてあげている③。④の顔は嬉しいか
ほけそうです。この日の朝のテレビ番組の「赤ちゃんの本」の③の名前は、「カエデ・ジーン」
④は「ジーン」、③「ぼくが一緒にする? って言ったんだ」 午後もうつと兄弟のように
遊んでいます。
- ⑧もいよいよシャベルがほしくて、②と一緒に探していると①達が遊んでいるところにつ
きました。②「うちん、そのシャベル使っても大丈夫?」①「いいですよ!」と、①は、シャベル
をハザード渡り時のように持ち変え、さもない⑧に貸しました。
- 朝の集まりで②「今日は、太陽はどこにいるのかなあ」何人から、「雲の上!!」②「雲
の上どこにいるのかなあ」(奏)「かくれんぼしてる!!」
- (奏)(奏) が大きなスコップの取り合い。二人で柄の部分に手をかけ、引っ張り合っ
て、濡れているのは(奏)。 (権)(五)が関わり「貸して言うんだよ」「順番
だよ」「どんどろんだよ」...と声をかけている。(奏)が(奏)の手を捕まおうとしてはず
すのと同時に⑨(奏)、手を触るのはよしだよ。スコップだけで「ひびきんだよ。口で
言えばいいからね」と声をかける。どちらが先に使っていたのかはわからない。
二人共、なかなか譲らない。しばらくして(奏)「いいよ、次に貸してね」(奏)は少しス
コップを使い、また(奏)に手渡していた。長い時間、引っ張り合ったからこそ、その
後のやりとりがスムーズ。
- ⑩も一緒に机散歩。(永)が最高尾で⑦と来るが⑥達は、それよりよく歩く。「帽
子がかぶらない」「手はつかない」と主張していた(五)は、(空)(五)に両手をつかないで
らい、にこにこ歩いている。(渚)は途中、何度かわこさんの顔を見ては「今日の机屋は
なあに?」(五)を「おれの人」と認識している様子。散歩の後半は、(渚)「もう行くぞ」
「机にざりとスイカ行こう」と頭の中は、机汁一色の様子。おしり谷では魚釣
りじこの(和)(五)(五)に(渚)(永)(渚)も加わり、釣った魚を焼いて食べるじこに
(渚)が入っていた。

- ・ランチ後「トモの苗を植えておす〜」と伝えると羽(愛)悦(実)澄(耀)碧(碧)がやって来た。時々振って遊びに行く人もいますが澄(実)耀(耀)はずっと集中してエを振り水をやっていく。あとから来た(悦)が「じゃうをまたやる!」と言う(実)や(澄)に「いいよ」と望みあげているので②「あはれや。優しいんだね」(悦)「ぼく、大きくなったからね。へへ」「大きくなって強いんだよ」②「優しくできる人が本当に強い人なんだね」(悦)「優しいって強いとか!」
- ・おおきくおの木の木のモノマネ体操。季節に合わせて少レづつ毎回違うバージョンを取り入れている。前は、巣箱作りの日だったので鳥の巣を落とすように木(体)を揺らして体操。さて今日は?と考えていたら(悦)「今日はカブト虫にしよう」と提案してくれてた。カブト虫が根(足)からはい登り、樹液を吸って飛ぶやつバージョンが出来た。(悦)「ぼくが考えたんだよ〜!」と嬉しそう。
- ・(植)「ミズを探したい」②(碧)に聞いてみよう。(碧)を探すと、古い物置の一番上から。(羽)と顔を出し、わーわー騒いでいる。(植)「(碧)ん、ミズどこ?」わーわーは止まらずにそこに④メンバーが入って来てさらに賑やかになると降りて来る(碧)。一人が畑の方へ。(植)「(碧)ん、ミズどこ〜?」と追いかけると、森の奥へ行きをっていく。(植)(碧)「ミズいおね、逃げちゃったね」と言いつつ探していく。近くを(羽)が通りかかると(植)「おびん来たー!」(碧)「おびん来たー!」(碧)は一人が森の入り口まで行って(羽)を待っている。その後(碧)は大ミズを手にして②「どこにいたの?」(碧)「はなけー!」
- ・ある日の④の列にたこの時間。(悦)は(羽)の隣にたたくて叩いてしまい涙の(羽)。(羽)は(悦)の隣にたたくと言いつつ(悦)に避けられ、また涙の(羽)。(悦)は飛び箱からのでんぐり返しで手を出さずに頭から入り、危ないと止めると涙→怒……。④は並ぶ順着を(悦)に指摘し、(悦)に目を叩かれ大泣き。(悦)にちゃんちゃんとちやかしを出し(悦)「やめてよ!」と言われ涙の(羽)。体操は楽しんでいすがトラブルが多い④...
- ・鬼足治ごころ(悦)(羽)が作っていたセミの脱け殻の毒を(悦)がひっくり返してしよう。(悦)「あーあ」と何か指して主張していると(羽)「これがひとつほいの?」脱け殻を渡すと、(悦)はひっくり返して手に乗せ見せる。また毒を作っていると(悦)「あーあ」(悦)「ここに入れたいの? 毒を

まじたいの？」(10)は手衣にっつこうなづく。混ぜて一緒に毒を作って本当に満足する(10)。作った毒を引っこ返さないと決めた(10)。言葉にたがくとも(10)の思いを汲み取ろうとする(11)は。⑫は急坂で遅れかちた(10)を「こっちからおいで〜」と筈の少ない方の通り返して歩み寄り、こうも一緒に歩いていく。

・おおきく井のある月曜日。薪棚の上に鳥の巣ができていた。中には卵が5個。ちやうどこの日は巣箱作りの日。⑫(ゆけ)から、大工さんの鳥の話を聞かされた。「鳥は毎日一個づつ卵を生む。シジュウカラは12個位まで。ウグイスは5個位まで。それから温める……」だれかが「もうこれはヒナに孵らないの？」⑫「自分で温めるの？」⑬「夜、帰るから難しい……」どんな場所だと脅かすか、考えて、巣箱作り、取りかきをした。

・おれり荷切置場の前で(10)(11)の取っ組み合い。たぐり合いが始まり。⑫も参戦している。⑫が近づくと⑬(10)が悪いの、(10)を応援して。⑬(11)も見ていて。⑫が⑬に「おれり？」⑬「んーどっちとは言えない……」⑫のカバンの上に置いてあった棒が(10)いわく森に落ちたから使った。⑫が怒って(10)から取り返すために戦っているらしい。背中を叩く。ほぺたをつねるなど。⑫がいつになく激しく。⑬も⑫にあがっている。見ていられないうつた様子で⑬「そろそろ選んであげて！」と⑫に訴えている。⑫「どちらの棒がねえから選んでいいよ。力尽きて(10)が取り返し2人の動きは止まりました。いつのしか来た(10)「谷川えらくんの勝ち〜！」

・朝の集まりで始めている⑫(10)を見て⑬「けんかしているね。集まりの後。⑫「さっきは始まってたいてい2人。⑬「(10)はぼくの隣りがいいって言ったのに。ぼくは隣りじゃあだて言ってるの。」⑫「ぼくは(10)の二とこが好まれない。いやだて言うからパンチして。」⑬「ぼくもいやだてパンチして。」⑫「うか。だからけんかしたんだね。」⑫「けんかじゃあないよ。だって仲良くしたから。」⑬「仲良くして。よかったね。」

・朝の集まり後。⑫が低木の木立の中に一人佇んでいる。⑫「何か困っている」と近づくと、上を指差して⑬「おれり。木立のあき間から木切れ日がキラキラと美しく光っている。⑫「キラキラだね〜」⑬「まじんの目に来た〜！」

3
・⑫(10)がどうもこを大きいシャベルで掘って進んでいる。⑫のシャベルから、ビシッ(10)の顔に、どろりかかっている。何も言わずに⑫をちらちら見る⑫。⑫「どろりとどろり。かかっているよ」とだけ伝え。この場を⑫が離れると。小さく声で⑫「すみね」と言て⑫の顔のどろりを取ってあげてくれた。

・⑫が大人から離れ。⑫がエの上の虫を見ているのをじっと見ている。⑫が何かを反応すると⑫も声を出したり、笑ったり……その後、切り株に板を乗せたシーソーのようになり2人で遊ぶ。

・トイレの先に浅間石を運んでいくつか埋めていた。(10)(11)(12)が関心を示し。スコップを持って来て一緒に穴を掘る。スタッフ駐車場の外から大まめの石を運ぶ時、⑫(10)(11)(12)(13)(14)の(10)たちが活躍。石にロープをかけ「オーエス、オーエス」と引っ張るのに5回程力を貸す。いよいよおれりの14回エースのよう。⑫も穴掘りに手伝いに来た。大きくスコップを動かす。⑫の顔に土がまみれる。⑫「(10)の顔、どんなふうに見える？」⑫は手洗い場に行き⑫を追いかけ。顔を洗った⑫にパーバールを塗り。顔を拭いてあげて。穴を掘りたてにスコップが足りない。貸し借りは促す様子を見る。⑫は貸してと言ったが貸してあげない。その場を離れて自分でシャベルで掘る。⑫もどこからか持ってきた。⑫は「ぼくもやりたいんだけど……」と繰り返している。誰も誰にも反応しない。⑫「貸してと言ったんだけど。」⑫「でもええん持ってたもん」と不満。結局、⑫が⑫から借りてその後⑫を⑫から⑫が借りていく。⑫もまたスコップを持って手伝ってくれた。⑫は穴を埋め、土を足で踏み固め、何で石を掃くという一連の流れをしっかりと覚えていく。

・⑫が素晴らしい真ん丸の美味しう(牛コ団子(泥))を作っていた。⑫を見たら⑫が「作りたい」と⑫に弟子入り。⑫は丸めやめや土を取って⑫に渡し「ぎゅっ」としてコロコロ転がすと丁寧に教えている。かたがた丸めはたがた。⑫「(10)のおてをく見てごらん」⑫はじつに⑫の手元を見ている。何れも⑫の目の前でコロコロ転がす。⑫は手を合せておれりに動かす。丸い棒が完成。⑫「ママに見せる〜！」と満足げな様子。

- ・紅葉谷下の岩の上で魚釣りごっこ船遊びの①②③に④⑤⑥⑦⑧も加わり釣った魚を焼いて「食べられる魚屋さんごっこ」。⑨はサメを焼く! クジラを焼く! と大きな葉っぱを見つけては木の棒を重ねた焚き火に投げ入れアイデアがおもしろい。
- ・帰りのくり・おれくりの集利で②「今日けんかした?」何人から「〇〇と〇〇がけんかした」と他人の事ばかりでなかなか自分のことには列ねん。③「けんかするって悪いことなの?」「-----」④「いばいけんかして友達に傷つけることもあるし。いばいけんかして友達の気持ちを傷つけることもあるんだぞ」⑤⑥が「けんかした」と話し始められた。それを突破口に正しいけんかの話も含めてたくさん話し始めた⑦⑧のみんなでした。

育み合っながら過ごしてきた子どもたちの一学期。心ゆくまで好きなことに没頭してきました。「自分にとって何が大切かを感得」と心ゆくまで体験できる「子ども時代」は素晴らしい。おもしろいと感じたことに体全体で関わっていくのが眩しい。そんな「子ども時代」の体験がはたしていつとる心の根こを作っていくのでしょう。

お父さんお母さんは、ひびに関わり、子どもをかわかがるエネルギーを補給できた一学期にありがとうございました。

長い夏休みに入ります。子どもたちの「日常」が奪われ、落ち着いた日々が過ぎるように。ご家族皆さまもお疲れとお過ごし下さい。感謝を込めて……

- ・8月19日(金) 2学期の保育開始です。ひびの森でお集まりしています。
- ・9月2日(金) 継続説明会があります。来年度、ひびを継続したい方、迷っている方はご参加下さい。
- ・9月3日(土) 入園説明会があります。お近くに入園希望される方がいらっしゃいましたらお知らせ下さい。お申し込みが必要であることも合わせてお知らせ下さい。